

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	輸血・移植検査学実習 (Practicum of Laboratory Medicine in Transfusion and Transplantation)		
ナンバリングコード	S30325	大分類 / 難易度 科目分野	保健医療学科 / 応用レベル / 臨床検査学
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 前期
必修・選択区分	コース必修: 臨床検査学コース 選択: 診療放射線学コース、臨床医工学コース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	S008501	クラス名	-
担当教員名	松井 智浩、政元 いずみ、菅崎 幹樹		
履修上の注意、履修条件	1.正当な理由のない欠席1回で、単位取得不可とする。 2.正当な理由のない遅刻2回で、単位取得不可とする。 3.レポート作成では、よく調べ、自分の言葉でまとめること。得られた結果についてよく考察すること。 4.レポートを評価する際、考察が特に大事である。臨床検査学コースの学生は必ず履修すること。		
教科書	輸血・移植検査技術教本 第2版(丸善出版)		
参考文献及び指定図書	最新 臨床検査学講座 免疫検査学/輸血・移植検査学 第2版(医歯薬出版) 認定輸血検査技師制度協議会 スタンダード輸血検査テキスト 第3版(医歯薬出版)		
関連科目	輸血・移植検査学、免疫検査学		

○基本情報		
授業の目的	臨床的にも社会的にも重要な検査である輸血・移植検査を行うための実技を修得する。 1.ABO血液型判定法が確実に実施できる。 2.Rh血液型判定法が確実に実施できる。 3.不規則抗体スクリーニング・同定検査、消去法が確実に実施できる。 4.交差適合試験法が確実に実施できる。 5.直接抗グロブリン試験が確実に実施できる。	
授業の概要	免疫検査学で学んだ生体内の防御反応の知識を基に、輸血および移植に関わる検査法(ABO血液型、Rh血液型、不規則抗体スクリーニング・同定検査、交差適合試験、直接抗グロブリン試験、HLA型検査)の測定原理や手技、輸血の安全性にかかわる諸問題を理解する。また、これらの検査法を体験し、検査結果の判定・解釈および臨床的意義について学び、病院での緊急性に対応できる能力を養う。さらに、輸血・移植に関わる検査材料や血液製剤の管理、取扱い方および保存法について理解する。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「実験・実習形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【ディプロマ・ポリシー1】	①生命に対する尊厳と人権を尊重し、人間力の基盤である他者を思いやり、相手の立場に立った共感力や豊かな人間性、主体的にチームの中で協調して行動できるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身に付けている。		10点	
【ディプロマ・ポリシー2】	②幅広い教養と倫理観を基盤として、診療放射線学、臨床検査学、臨床医工学のいずれかの専門分野に関する医療技術の知識と技能を修得できている。	50点	20点	
【ディプロマ・ポリシー3】	③医療の実態を理解したうえで、チーム医療の実践や多職種間の連携に必要な課題解決力を身に付けている。		10点	
【ディプロマ・ポリシー4】	④日々進歩を続ける医療機器、医療技術を理解し、医療の高度化、情報化に対応したデータやデジタルを活用できる力を身に付けている。		10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)	
○定期試験(50%)およびレポート(50%)により総合的に評価する。 ○定期試験は、国家試験形式とする。 ○正当な理由がなく、レポート提出期限を守れなかった場合、そのレポート点は0点とする。 ○定期試験結果およびレポート評価は、後日個別に知らせる。	

○その他	
○授業計画は、検体の準備状況や、実習の進行状況および学修状況等により、内容や順番を変更したり、追加や削除等をする場合があります。	
○質問に来る際は、必ず勉強した上で、具体的な質問をすること。	

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名	輸血・移植検査学実習 (Practicum of Laboratory Medicine in	授業コード	S008501
		担当教員	松井 智浩、政元 いずみ、菅崎 幹樹		
学修内容					
1. 輸血検査法の概要					
実習室使用上の注意をはじめ、輸血検査に使用する検査機器や試薬の作成法等を学習する。					
予習	シラバスの確認と教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。				約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。				約2時間
2. ABO血液型検査					
スライド法によるABO血液型検査を学習する。					
予習	教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。				約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。				約2時間
3. ABO血液型検査					
試験管法によるABO血液型検査を学習する。					
予習	教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。				約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。				約2時間
4. ABO血液型検査					
カラム凝集法によるABO血液型検査を学習する。					
予習	教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。				約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。				約2時間
5. Rh血液型検査					
試験管法によるRh血液型検査を学習する。					
予習	教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。				約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。				約2時間
6. Rh血液型検査					
D陰性確認試験を学習する。					
予習	教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。				約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。				約2時間
7. 唾液を用いたABO血液型検査					
唾液を用いたABO血液型検査を学習する。					
予習	教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。				約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。				約2時間
8. 不規則抗体スクリーニング検査、消去法					
生食法、酵素法および間接抗グロブリン試験による不規則抗体スクリーニング検査と消去法を学習する。					
予習	教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。				約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。				約2時間

○授業計画	科目名	輸血・移植検査学実習 (Practicum of Laboratory Medicine in	授業コード	S008501
	担当教員	松井 智浩、政元 いずみ、菅崎 幹樹		
学修内容				
9. 不規則抗体同定、消去法				
生食法、酵素法および間接抗グロブリン試験による不規則抗体同定検査と消去法を学習する。				
予習	シラバスの確認と教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。			約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。			約2時間
10. 交差適合試験①				
生食法による交差適合試験を学習する。				
予習	シラバスの確認と教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。			約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。			約2時間
11. 交差適合試験②				
酵素法による交差適合試験を学習する。				
予習	シラバスの確認と教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。			約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。			約2時間
12. 交差適合試験③				
間接抗グロブリン試験による交差適合試験を学習する。				
予習	シラバスの確認と教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。			約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。			約2時間
13. HLA型検査				
HLAタイピング検査としてPCR-SSP法を学習する。				
予習	シラバスの確認と教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。			約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。			約2時間
14. 直接抗グロブリン試験				
直接抗グロブリン試験による不規則抗体の感作を学習する。				
予習	シラバスの確認と教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。			約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。			約2時間
15. まとめ				
輸血検査法の技術修得の確認を行う。				
予習	シラバスの確認と教科書や配布プリントの実習内容に該当する箇所をよく読んでおく。			約2時間
復習	実習内容を復習し、レポートを作成する。			約2時間
16. 期末試験				
予習				
復習				